

平成25年度第2回まちづくりトーク

会 議 録

まちづくりトーク i n 池子の森

2013年（平成25年）6月29日（土）

12：30～13：30

池子米軍住宅地区西側共同使用予定地

【福本市民協働課長】 それでは、1時間ぐらいお時間をいただきまして、まちづくりトークということで市長と皆さんとで意見交換をしていただけたらと思います。市長、よろしく願いいたします。

【平井市長】 （拍手）皆さん、きょう散策していただいて、いかがだったでしょうか。初めて入られた方、どのくらいいらっしゃいますか。3分の2ぐらいは初めてなのかな。今、最初に運動施設から入っていただいて、それからレクリエーションエリアのところ、ここは自然観察エリアという形で、3つのゾーンに分けて公園整備していこうということにしています。ごらんいただいたとおり、運動・スポーツエリアのほうは、今でもたくさん逗子の子供たちを中心に、親善交流という形で使っていただいているので、共同使用が許可されて、オープンできるという形になったときには、まずはこのスポーツエリアから先行利用をする予定です。それまでの間に、今、先ほどフェンスにずっと沿って歩いてこれましたけれども、この40ヘクタールを隔てる境界のフェンスの工事を今年、来年で実施します。先ほど見ました一番端っこのところまでフェンスを設置して、あちらにはゲートができますので、米軍のヒルズの住民の方はそこのゲートを通して、さらに奥に、今でもキャンプサイトが広がっているんですけども、利用されるということになっているので、したがってここをずっと抜けて米軍の方々には利用されるというところですね。

それで、あとはスケジュール的には、境界フェンスの工事、それからあと、さっきゲートのところに管理事務所がありますけれども、それも内側に移設をする。それもこれから国が工事をやりますので、その工事そのものにあと1年強はかかると思います。その後共同使用の許可の手続をやりまして、それで日米の両政府での合意が正式に手続が終われば、逗子がそこから先、工事に入れるという段取りになります。ですので、先ほど申し上げた運動エリアは今でも別にほとんど手を加えなくても使えますから、ゲートさえ移設して、一応逗子側の管理体制を整えば利用できるということになります。レクリエーションエリアのところは、ごらんいただいたように、手を加えないと安全対策を含めてちょっと使えませんので、それは少し時間がかかると思います。こちら側のエリアは、今でももちろん使っているんですけども、結局、今、米軍の人が使っているので、ごらんいただけるように、そんなに人がいっぱい、わさわさいるわけではありません。この土・日で非常にいい天気、きょうの様子を見ても、本当にぱらぱらと米軍の方々も子供たちも含めて遊んでいると、そういうことだと思います。ただ、これが逗子が使えるようになったときには、皆さん大いに期待をされてますから、どっと押し寄せてくると、自然を壊してしまうということにもなりますし、またやはり公園として管理する以上は、安全面もやらなきゃいけない。

先ほど、入ってすぐのところの川のところが少し窪んでいますよね。あそこは何の柵もないですけども、今はそんなに利用者がいないので、あのままでも問題なくやっていますけど、市が管理する以上は当然安全上、落っこちないように柵をつくったりとか、そういう対応もしないと、なかなか市民の方に使っていただくにはちょっと問題があります。あとはさっき池がありましたけれども、あそこも人がわっと入れば、外来種を放ってしまったりとか、いろいろなトラブルも当然想定しなければいけません。そういうことも全部ひっくるめて、どういう運営をするのかということこれから決めなければいけません。プラス、その前提としては、これだけ豊かな自然がありますから、今の植生どうなのかということ、希少生物、動物、そういったものも、ある一定やはりちゃんとこちらとしては調べた上で、どういう利用が最も適切なのかということも、やはりしっかりと科学的にも調査した上で、公園の利用のルールを決めましょうと。そういうそれなりに順序を踏んでいかないと、許可がおりましたから皆さんどうぞというわけにはいかないと。いうところは、ぜひ御理解いただきたいなというふうに思っています。

あともう一つ大切なことは、さっきからもいろいろな方からお話し出しましたけれども、お金の問題ですね。ここを整備するだけでも相当の費用がかかります。今、行政のほうでは、基本計画に基づき全部を本当に整備をしようとする、概算ですけれども9億円弱ぐらいかかるんじゃないかというふうに試算しています。それには400メートルトラック、あそこタータントラックですけれども、それを張りかえるとか、あとテニスコートを見ていただきましたけれども、あれもごらんとおり、結構コートの路面がかなり古くなっている、こういうものも張りかえたりとか、もろもろの大規模修繕プラス子供の広場、野外活動の施設、そういったものを計画どおり整備すれば、それぐらいかかるであろうと計画上は弾いています。当然、逗子市としては防衛省に対して、全部逗子でやるなんていうのは、これはもう到底賄いきれないので、何とか財政的には支援してください、補助してくださいという交渉をしています。ですので、この間は私も直接防衛副大臣にお会いして、それでこの基本計画の内容を御説明をし、今言ったようなお金の面での協力もそうですし、あるいは米軍との交渉なり手続がスムーズにいくようにと副大臣にお会いしてお願いをしてきました。そういうことをもろもろ今、詰めている段階ですので、この公園がすべて必要な整備も終えて使えるようになるには、4年でできれば早いほうかなという感じです。それはとにかく防衛からの支援があれば、それなりにめども立つんですけども、そこがなかなかめどが立たないと、既存のものは、スポーツ施設は使えますけれども、じゃあ中のこの広場を含めた公園全体として使うには、まだまだ越えなければいけない山があるというところなんです。

ですので、こうして皆さんに体験していただいているのは、まずはこのすばらしい自然、見たことがない人がほとんどですから、できる限りこういう機会をつくって、多くの方にまずは現地を見ていただいて、この豊かな自然をどうやって守りながら私たちが使うかということと一緒に考えていただきたい、そういう趣旨で、きょうで恐らく4回目ぐらいかな。こういう企画をやっています。予定では、今年あと2回ぐらいやりたいということです。できるだけ多くの方に、まずはこの状態を知っていただいて、それで今の逗子の状況もお伝えをして、皆さんに理解していただいた上でこれから大切に使うための話し合いを重ねたいなというところでございます。

きょうはもうぎくばらんに、初めて入っていただいた方が多いので、感想をおっしゃっていただいて、こんなことを気をつけたらいいよみたいなことも意見としていただければ、それはしっかりと担当のほう書きとめて、今後の計画に反映したいなと、思っていますので、残りあとちょっとの時間ですけれども、よろしく願いいたします。

【市民】 私はパブリックコメントの延長線のような話になると思いますけれども、今、市長さんは市民の皆さんの要求を満たそうとしたら、予算の問題、お金が非常にかかるということで、10億円ちょっと下ぐらいまでというお話ありましたけど、私の提案はね、お金が全然かからない。しかもお金を生むというようなことでございます。私はずしし環境会議の二酸化炭素削減部会という、地球温暖化防止のために炭酸ガスをいかにしたら減らせるだろうかという部会に属しています。結論から言いますと、それはこの森を、皆さんは憩いの場とか、あるいは生物が生きていける鑑賞の場とかね、あるいはスポーツの場、レクリエーションの場、そういうふうなとらえ方をしていますけれども、森は一つのエネルギーのソースだというふうにとちょっと見ていただきますと、きょう来る前にいろいろうちの二酸化炭素削減部会でも検討しましたけれども、スギとかマツとかの針葉樹、これを燃料にする場合には木質ペレットか何かにする。これは水分をとことんまで抜いて圧縮しないと、燃料にならないらしいですね。日本の森、里山なんていうのはそれが非常に多いので、燃料にならない。ところが、ここは非常に幸いなことに、この周囲を見ますと、マツとかスギとかはなくて、昔のナラの木とかブナの木、クヌギ、いろいろ昔、炭とか薪に使っていた森がいっぱいあるんですよ。そういうのを我々の仲間と一緒に話しながら来たんですけど。

ですから、ひとつ見方を変えて、この森はどうせいずれ整備をしていく上に、いろいろな木が、昔ながらの針葉樹じゃなくて広葉樹の木がいっぱいあるんだから、森を資源として見ようじゃないかと。しかも、御存じのとおり、木を燃やしたらCO₂は出ますけれども、カーボンニュート

ラル等、そしてできたCO、CO₂というのは、また水から吸って木になるわけですよ。したがって、森から出た木を燃やしても、それは炭酸ガスをふやして地球温暖化の原因にはならないというようなことですので、我々CO₂部会のテーマとしてはもってこいのテーマじゃないかと。しかも今すぐやれと言っているのではなくて、1カ所ぐらいはもう森として、森をペレットにしなくても、薪のままでも燃えて、石油のかわりになるのですよと。石油のかわりになればCO₂は出ません。そうすると、地球の保護には燃料としては、木の値段でいいことになりますから、しかもその木も、こういう純粋な木だったらペレットになんかする必要ないわけです。

そんなことで市長さん、市民の言うことを聞いて一生懸命やろうとしたら、頭を下げながら予算の捻出をせにゃいかんということですけど、もうけるような話も、市の業者とか何かを利用しながら、森林をエネルギー源として考えてもらえないかと。しかも、金のかかりそうなときには、ボランティアグループというのがいっぱいおまして、これはもう一生懸命働きますので、そういうのも使いながら、ひとついろいろな構想を、市長という身分プラス経営者という身分でやってもらえると、きょう来たかがあるなと思います。今すぐやれという意味じゃなくて、まずパイロットからというかね、その一角は無罪放免ということで、いろいろテストをする場所というふうにして、金がかかったら、もうそこで即座にやめるといような調子でやってもらえばいいなというふうに思っています。よろしくをお願いします。

【平井市長】 ありがとうございます。はい、どうぞ、お願いします。

【市民】 私、きょう初めて参加させていただいたんですが、実はこの計画に反対の立場で本日参りました。というのは、この市の計画を見て、大自然が残っていると私は思っていたんです。ところが入ってきたら、完全に破壊されていますよね、既に。これ以上破壊することには、私はもう賛成できません。したがって、できればですね、だれでも入れるような場所じゃないふうにしていただきたいんです。例えば久木大池公園、先月行ってきましたが、既にもうお菓子の袋とかペットボトルとか、いっぱい捨てられています。あれ、恐らくあそこも整備に相当お金かかっていると思うんですが、さっき市長もおっしゃったように、ここの整備だと、もっともっとお金かかりますし、例えばこの広場のエリアぐらいは開放してもいいと思うんですが、自然が多く残っている、このマップで言えば16番。この散策路の計画は、私は反対です。今もちょっと散策路、入り口を見てきたんですが、相当これ整備しないと、非常に危険な状況だと思います。私の意見、以上なんです、ひとつそのあたりを御考察のほどお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

【平井市長】 ここ、ごらんいただいているように、今でもかなり手入れがされていて、広場として使えるようになっていきます。ですから、少なくともここはほとんど手を入れない。できればこのままの状態を維持する。プラス、池がありますね。先ほど申し上げたとおり、あまり人が入って、いらぬものまで持ち込まれてしまうと、大変厄介なので、このエリアは特に入場制限するのはどうか。例えば鳥なんか繁殖する、あるいは植物が繁殖する時期というのが当然ありますから、そういったものをどう壊さずに、適度な距離感でここを使うかということは、十分考えながら運用しなければいけないというふうには思っているのです、その意味でも先ほど申し上げた植生調査なんかは必要な範囲で行いながら、今御指摘のような、これ以上余計な手は加えないと、そういうところは十分反映できるようにしていきたいなというふうに思っています。

【市民】 私は今回初めてこちらを見せてもらって、こういういい機会をまず提供していただいたことに感謝したいと思います。それから、自然を守るという市長の先ほどの考え方、大賛成です。やはり現状をしっかりと人に、しかるべき人に見ていただいて、それで守るところをどう守っていくかということを経験をかけてやっぱり、急ぎ仕事じゃなくて、じっくり検討していただきたいと思います。

それに加えて、やっぱり財源が必要になってきますから、できる限りパブリックのパワーを使って、協力してもらえるような仕組みづくり、これを真剣に考えていただきたいと思いますね。何よりも守るのは市長一人じゃなくて、我々市民ですから、市民がそういったことを自分たちで守っていかなきゃいけないんだという認識、自覚を持たない、育ってこないことにはね、言うだけで実行はできませんよ。荒れるままになることは目に見えています。ですから、できる限り市民に理解を得るような、仕組みづくりを真剣に考えていただきたいと思います。以上です。

【平井市長】 ありがとうございます。この間、議会が終わったばかりで、その中でも実は議論がありまして、今ごらんいただいたように、キャンプのことですね。これはどうするんだという質問がありました。私の答えは、ここはキャンプ場としては位置づけません。キャンプ場と言った途端に、やれ水道を引け、電気引け、釜をつくれ、こういう話になりますから、それは一切ありません。ただ、やはり子供たちを含めて、キャンプできないんですかという声はあります。学校の先生なんかも、地元のこんなすばらしいところで体験できたらいいねという声は確かにあります。じゃあ、どういう使い方であれば可能なのかということは、これはじゃあどこで折り合うかということのをこれからちょっと真剣に議論して、この範囲だったらどこまでを許可しようと

か、やっぱりここはやめておこうとか、そういうことを話し合いを重ねて、調査もした上で、じゃあ皆さんここで折り合いましょうと、そういうことをこれから1年、2年かけてやっていくのかなと、そんな感じです。

【市民】 市長のお話で、こういう場所、自然の場所を利用するために、いかに安全に対応するかということで、いろんな整備の話がされていると思うんですけども、もう一方大事なことは、自然だからいかに市民が注意して接するかという、そういう自然を保護するために通路をつくって、これ以外行くなというやり方もあれば、やはり自然を守って、そして自然を壊さないという市民の自覚も非常に大事だと思っているんですね。僕は山へ行くんですけども、山へ行ったときは、個人の責任で行っているわけですよ。落ちたら落ちたで、それは個人の責任で、我々は済ませているんですけども、結局、今の状況でいくと、ごみを落とさない、させないための市民の啓蒙もしないと、いや、落とすことを考えてどうしよう、こうしたらどうしようという、そっちのほうばかりいくと、多分いつまでたってもこの自然はみんなに楽しんでもらえない。早く楽しんでもらうためには、もっとやっぱり市民の啓蒙も一方でやらないと、こうしてはいけないよと、こうしたら来てくださいという、そういうことも大事にしないと、今さっきおっしゃったように、最低でも4年かかるとおっしゃってましたかね。4年かかったときは、僕はいないかもしれないんで、ぜひ早く開場するためにですね、市民に対する啓蒙もやらないと。例えばペットボトルを持ってきて捨てるなというんだったら、ペットボトルを持っていかさない。ここはそういうことをしない場所だということにするようなことをやっぱり一方でやらないと、どうも今の行政はお金をかけることばかりで、むしろそういう啓蒙によってお金をいかに少なくするかということは、ちょっと欠けているんじゃないかと思います。老人の一言で恐縮ですけども、お願いいたします。

【平井市長】 はい、ありがとうございます。ここはちゃんと整備できるまで、ここは一切立ち入れませんということではないです。せつかく共同使用が始まったのに、全く整備ができてないから入れませんということだと、本当に市民の期待を裏切ることになるので、限定的に、例えばこういう形でツアーを組んで、このように散策をするということであれば、それはもうできるわけなので、とにかく常時オープンして、はい、だれでもどうぞという使い方は、かなり慎重にやらないと、自然を壊すので、その間はどうやって、どれくらいの頻度でこういう形で皆さんに入っていたかということも、当然ルールとしては決めながら、追々整備を進めて、じゃあそれが終わったらどういう決まりで活用していただくかということも慎重に決めていけばいいかなと、

そんなふうに思いますね。

【市民】 期待しております。

【平井市長】 ありがとうございます。いかがでしょう。ほかに初めて入られた方、どうぞ。

【市民】 きょうはこういう機会ありがとうございます。本当にこういういい自然があるということをはんと初めて知って、特にやはりこの自然と、それからまた歴史的、遺跡的なものとか、これは逗子市だけじゃなしに、神奈川県、強いて言えば国の財産かなというふうな形で、もっとこの環境を保護しながら、大切にしていくことが我々この地にかかわっている人たちの責務かなというふうに感じます。特に私、実家が西宮で、阪神淡路大震災に遭ったせいもあって、今回の東北の大震災でも、ボランティアに行っていて、そこで感じたことは例の石巻については、石巻の専修大学というところがボランティアの基地みたいになりまして、それで非常に石巻の復興が早かったと。この地を見たら、そういうふうな石巻の専修大学のキャンパスに適応するような場所であって、広域的な意味の災害対策の場所なんかに使えるんじゃないかなというふうなことも考えて、そういうことも含めて国と一体化になりながら、この環境をうまく、自然保護を守りながら活用していくようなことを考えていくことも一つの手かなというふうに思ったりもしています。以上です。

【平井市長】 ありがとうございます。ここの広場は、今でも広域避難場所には指定をしておりますので、もし大災害があつて何か逃げてこなければいけないときは、久木の方たちは先ほどの中学校のグラウンド、今、高いフェンスで仕切られていますけれども、あそこにちゃんと車も出入りできるような扉がついているんです。日ごろはかぎが閉まっていますけれども、そういうときにはオープンして、ここに逃げ込んでこれるという体制にはなっていますので、ここが池子の森自然公園になったときにも、当然その機能はちゃんと維持する、万々が一のときにはここが災害避難の場所としても機能するということなのです。

今、皆さんが座っているこの山ぎわのところ、ここに川が流れています。ここはホテルがやっぱり群生するところで、先日、僕もちょっとこっそり見に来ましたけれども、本当にいっぱい、数はわかりませんが、何百はいるんじゃないですかね。池子ヒルズの皆さんが、カワナなんかを放して、ここでホテルを育ててくださっています。ですから、そういう場所でもあるということで、まさにそういうところにわさわさ人が入れば、ホテルはいなくなっちゃいますから、そういう自然をどう守るかということも、これから考えなければいけないなと思いますね。

【市民】 これはちょっと先走った話だなと思いますけれども、ルールをつくって管理をしてい

かれるんですけど、定期的に有識者に環境が保たれているかどうかということを検査する仕組みも、僕はぜひ用意していただきたいと思うんですよ。つくりっぱなしですと、必ず先ほど市長が心配されたように外来種を持ち込んだり、そういうことは必ず出てきますよ。そういうことのないように、定期的に検査する。これは自分たちがそういう意識を持っていなければ残念ながら自主的にはできない。現状では無理だと思いますから、やはり定着するまでは有識者による検査というのは絶対必要だと思います。以上です。

【平井市長】 ありがとうございます。専門家の先生からも、そういう御指摘はいただいております。それこそ、池がありますけれども、何年かに1回、全部水をぬいて、そこに外来種がいなか、いれば駆除して、また水を戻すとか、そういうオペレーションも必要なんじゃないかということは、御意見としてはございます。どういう自然保護のやり方でケアしていけるかというのは、これからいろいろと、おっしゃるように検討していかなければいけない課題であるなと思っています。さあ、いかがでしょうか。はい。

【市民】 広い40ヘクタールの公園ということで、私が一番、ちょっと欠陥があるなと思ってますのは、トイレが1カ所しかないことなんですよ。向こうに休憩所という場所があるのに、そこにもトイレがなくて、ここの、これだけの広場で子供たちとか家族の方が遊ぶところであっても、また入り口のエントランスまで行かないとトイレがないということなので、ぜひもう一つ、距離の遠いようなところにトイレをつけていただきたいなというふうに切にお願いいたします。

それでもう一つ、先ほど市長さんが、だれでもウェルカムではないとおっしゃいましたが、私は反対で、これだけすばらしい自然の環境を、逗子の皆さんにぜひみんな来て遊んでいただきたい、知っていただきたいというふうには思うんですよ。そのためには、維持管理をどうするかということを考えなければいけないんですけれども、逗子の海岸の清掃とか、田越川の清掃とか、皆さん活動されていますので、そういうお力を借りてですね、このいい環境をそのまま維持して、なおかつ逗子あるいは横浜の市民の方に来ていただきたいなと思っています。ぜひともトイレだけはちょっと考えていただきたいと思います。以上です。

【長嶋緑政課長】 すいません、トイレのことなんですけれども、まず、先ほどお配りしました14番ですね、13番の下に14番ってありますので、そこにまず一つ、トイレは新設いたします。それとですね、これは先になるかもしれませんが、11番の青少年のための野外活動施設、これができるればその中にもトイレは当然つくりたいと考えております。以上です。

【平井市長】 トイレも、当然下水道を引くのか引けないのかとか、いろいろある。上水道も引

くのか引けないのかとか。今は多分、上水道は先ほどあの辺に水道栓が1個ありますけれども、あそこまでしか来てません。あっちにもあるのかな。そこまでですね。それは米軍が引いているので、逗子として整備したということではありません。利用される方は、別に市民に限定しているわけではないので、市外からもいっぱい多分来られると思います。あとは、どの程度の頻度と、人数をうまくこういうことで受け入れるのか。その辺をどの程度のバランスで運用すれば一番いいのかというあたりを、徐々に徐々に、多分広げていくという、そういうことがいいんじゃないかなというふうには思いますね。恐らく、一気に皆さんどうぞと言った途端に、何百人、何千人という人がきますので、これをやってしまうと、一気に例えば草、芝一つとっても相当傷むでしょうし、その辺のあんばいをどうすればいいかというのを、これからちょっと決めていくというところですかね。

ほかにはいかがでしょう。入ってみての感想でも結構です。

【市民】 私は隣の金沢区に住んでいるんですが、逗子のほうで小さい子供と遊ぶ活動をしているので、きょう初めてここへ入れるということで、わくわくして来たんですけども、ほんと入ってみたら、すごく気持ちのいいところで、とても感動していました。今、皆様のお話を聞いて、あ、いろんな人がいろんなことを考えているんだなというのがわかりました。私は本当にハイキング感覚で、どんなところかなという感じで来て、もう単純にいいところだなと思ったので、もっとほんと考えなければいけないことはいっぱいあるんですけども、純粹にもうたくさんの方がやっぱりいいところだなと、ここに入ってみて思えば、大事にしていかなければいけないだろうなという感想も生まれると思いますし、どうやって守っていこうかなというほうにも気持ちがいくと思います。だから、自然が荒らされるというのは本当に危惧されることですけども、やっぱりできるだけたくさんの人にこういう自然のすばらしいところを体験してもらえそうなものになるといいなというふうに思っています。

【市民】 私たちは小さい子供と山や海で遊ぶ活動をしています。きょう来たのは、子供たちと歩ける場所があるだろうか、遊べる場所があるだろうかということを実際に見たかったということで来ました。あいにくハイキングコースは歩けなかったんですけども、ぜひ子供たちにそのままの自然を見せてあげる。ここは本当にいわゆるアメリカ的な、芝生があって、木があって、水道があって、先ほどそこでスプリンクラー、水まきしている米軍家族の様子が映画みたいだなと思いながら見ていました。こうして子供たちが遊んでいたという広場で、もちろんこういう場所はいいんですけども、山の中を歩く活動ということをやりたいなというふうに思

っています。そのためには、先ほど啓蒙というふうにおっしゃっていましたが、もちろんすごくそういうことが大切だなというふうに思いますし、例えばここをオープンしたときに、初めのころだけ、ある程度事情がわかるまで、自然のレンジャーみたいな方を、毎日というわけにはいかないでしょうけれども、週末、人がたくさん来るときに来て、一緒に歩くであるとか、最初のころはその方が案内するような形で皆さんに話をしながら歩くというようなことも考えられるのではないかなというふうに思いました。ぜひ、本当に自然を残しながら、人が集まれるということが実現できたらいいなと思っています。私も池子ですので、本当に近くにこんなすばらしいところがあるんだから何かの力になれるようなことがあれば、というふうに、きょう思いました。ありがとうございました。

【平井市長】 ありがとうございます。その地図上にあるハイキングコースというのは、実は今でもあります。前回この企画をやったときには、そのハイキングコースを歩いて、ここまでたどり着きました。本当に山の尾根沿いに、いわゆるハイキングのできるような道があって、あとは階段なんか、米軍の方々が整備をしてくださってはいます。ただ、それも結構老朽化したりしているので、もしそれを生かすのであれば、ちょっと手を加えないとだめだったり、あるいは境界フェンスをつくっていますから、一部ハイキングコースが米軍側に行ってしまうという箇所もあったりするので、その辺も含めて、どうやってそこを活用するかということも、これからの検討課題にはなっています。子供たちにはぜひ、この豊かな自然を体験してほしいし、その中でいろいろな、なかなか日ごろまち中では感じるできない、いろいろな感性をここで身につけてほしいなと、そんなふうに思いますね。

【市民】 きょう、私、初めてここへ来ました。非常にいいところで、よかったなと思っています。私が、今思っていることは、具体的なことではないんですが、抽象的には米軍が管理していたときのほうが自然がよかったというようなことを絶対後世言われたくないという、こういう基準をしっかりとつけて、守っていただきたいということです。それから、今、子供の話が盛んに出ました。私も今、環境関係で学校へ出前授業なんかよくやるんですけども、小学生クラスを対象にした自然エネルギー、太陽光、風力、水力、バイオマスといったようなことが、ここの公園へ来れば、本物じゃなくても、太陽光パネルなんかあそこにありますけれども、そのミニチュア版みたいなものでもね、こうやって風力発電するんだよ、こうやって水力発電するんだよというようなことが実感できるような、子ども向けの施設をぜひお願いしたいと思っています。

それから、逗子のもう一つの史跡として長柄桜山古墳というのがあるんですが、私はもう十何年来もここを守る会というところにも入っていきまして、毎月ボランティアでパトロールをやっております。ここもやっぱり十数年前、初めてパトロールしたときには、まさにごみ拾いでした。2～3人で回ると、大きなごみ袋がいっぱいになるくらいのごみが出るというのが当たり前の状態。主に空き缶、空き瓶、弁当の食べ殻、こういったものが捨てられていました。しかし、ここ4～5年前から非常にきれいになった。これはやっぱり人間というのはきれいなところは汚すという習慣がないんだな。やっぱりきれいにするということは非常にいいことだなということで、最近はまだごみもほとんど落ちてないような状態になっております。環境を維持するのは、そういった清掃する人間、もっとくだけて言えば、ごみ拾いをする人間がいないと、そういう習慣が成立できないということを身をもって体験しておりますので、こういったようなことはやっぱり、とことんやっていかないといけないなというふうに思っています。

先ほどキャンプ場という話も出ましたが、これは絶対やめていただきたい。あの古墳にも、夏になるとたき火をする跡があるんですよ。たき火の跡というのは、必ずイコール山火事につながりますのでね、非常に怖いなというふうに思っています。

それからもう一つ、ここと長柄桜山古墳の大きな違いというのは面積ですよ。古墳を守る会というのは、あそこの尾根歩きで、一本道で済むんです。ところが、ここの尾根道をスチール製のストックを突きながら歩くという方が非常に多い。それをやられると、道が非常に傷む。ちょっと雨が降ると、昔は全然滑るようなことはなかったのに、つるつる滑るような地面になってきているとか何とかというようなことで、そこいら辺もちょっと考えていただかないと、せっかくここ、きれいになっていますので、自然を壊すようなものはちょっと避けていただきたいなと思います。

それから、先ほどトイレの話も出てました。ここの長柄桜山古墳というところも、トイレはやっぱり片方、片側にしかない。片側というのは、野外活動センター、それから六代御前というほうにはトイレがある。ところが、反対側に出るほうの葉桜住宅のほうにはトイレがありません。そのために、どういいうごみが出るかという、ちょっとあまり言いたくないんですけども、トイレの用を足したあとの紙が、こういう草むらにいっぱい落ちている。最初、私、あれ、何でこんなところに白い紙が落ちているのということで、手で拾って、軍手しているんですけども、そうしたら、あるときに女性の方から、それはトイレのあとの紙ですよと言われて、ぞっとしたんですけども。やっぱりトイレがないと、そのようなことになってしまいますので、そこら辺

もやっぱり早めにやっていただきたい。家がもうでき上がってからは、トイレなんていうのはつくることできないんですよ。いくら公園でも。ですから、そういうものがまだないうちに、そういったトイレだとかごみ捨て場だとか火葬場だとか病院だとか、こういったような公共施設はまだどこにでもできるよというようなときに、早めに手をつけておいていただきたいというふうに思っております。以上でございます。

【平井市長】 ありがとうございます。先ほどまた手が上がってました。

【市民】 いただいている地図の左側の境界線のところ、これは私よく歩くんですけども、結構山道がずっと米軍住宅の周りを回れる。その山道、知らない人がいますから、せっかく地図をおつくりになったのだから、やっぱり何かここへ記入してほしいなと思います。もっとやっぱり自然に親しむために、そういう尾根道といいますかね、ああいうのもこの中に入っていれば、もっと皆さんが、ここだけじゃなくて、いろいろなところがあるんじゃないかというふうに思いますので、ちょっとこれ、蛇足ですけども、気がついたのでお話しをしました。以上です。

【平井市長】 ハイランドのほうから入れますよね。ただ、残念ながら、ここにつながってないんですよ。いかがでしょう、ほかに何か御意見が。

【市民】 先ほどのお話しにもありましたが、米軍家族住宅の方が住まわれているときは、ある程度、自然が保たれました。ところが、一旦逗子市民がここに入りましたら、その自然がかなり壊された。こういうことがないように。これ、非常に重要なことなんです。といいますのは、先ほど歴史資料館へ行きまして、こういうふうな説明を聞きました。昭和12年、海軍省の人たちがここに住んでいた人に突然2～3カ月後に出て行きなさいということで、それ以来ちょうど75年ぐらいたちましたね。私たちも仲間で話したんですけど、実はこの自然がこの程度に保たれているのは、人が入ってないということなんです。それが第一条件なんです。逗子市民が例えば50年、60年、いろいろ苦労してこういう自然を保ったわけじゃないんですよ。そこへ共同使用ということで市民が入ってきましたら、たちまちのうちに自然が壊される懸念が十分あります。ということで、まずせっかくここまで立派な自然が残されていますから、これを壊さないように、どうするかということをおみんなで考える。

それには提案したいんですけど、きょう初めてここに参加しまして、いろんな自然等見させてもらいました。できればですね、市民の方がここへ来て、施設なんかも見ていると思いますけど、もう少し、4回、5回とは言わず、10回、たくさんの市民の方に来ていただいて、まずこの現場を見て歩いてもらう。そうしますと、この施設に何をどうしたらいいか。こういった新しい見方、

新しい考え方で意見が出るのではないのでしょうか。お願いは、ぜひ2回とは言わず、5回、10回、たくさんの、例えば延べ1,000人ぐらいの方にこういった形でこの現場を見てもらう。そうしたら、ここでどんな利用の仕方、どうすればいいか、逗子市民は割と自然について関心を持って、自然を守りたいという人が多いですから、そういう人たちの発想を生かしてもらいたいと思います。

それで、問題はこれからなんですけどね。計画によれば、アーチェリー場ができる。しかも、先ほど聞きましたら75メートル、これはすばらしい立派なものですよ。アーチェリーをやっている逗子市民というのは1%もないと思うんです。想像するに、今、第一公園にありますけれども、逗子の方が中心に、葉山、横浜、その他の方が使っているわけです。そのアーチェリーをつくるために約3,000万円が計上されているんですよ。アーチェリー場の必要性を感じている人に、市民はいないんですけれども、なぜつくるか。ぜひ私としては、アーチェリー場をつくるのであれば、その費用を自然を守っていくために、あるいは道路管理、運営に使ってもらいたい。きょう歩いてみましたら、歩道がありまして、そのわきに草が生えていますよ。これをね、管理するのに、恐らく年間3,000万かかるか知りませんが、そのくらいの費用がかかるんです。一番心配しましたのは、もし共同使用して道路周辺の草刈り、この他にもものすごく費用がかかりますので、逗子市としてはその辺の費用をね、どのくらい見込んでいるか、その辺だけ教えてください。以上です。

【平井市長】 管理費用をどの程度見込む必要があるかというのは、まさにこれからどういう運営をするかということを決めていかないと、なかなか具体的な費用というのが出てきません。おっしゃるように、これだけの芝生を維持するだけでも、それなりにお金がかかる。したがって、お金の面でいくと、管理費用の部分をどうやって国に支援してもらえるのかということももちろん交渉しています。あとはもちろんさっきからボランティアも含めてという御意見もいただいておりますけれども、そういう形で、どうやればできるだけ節約しながら、この自然を維持できるのかということは、これから検討していく課題にはなっています。

整備費の問題でいくと、これは先ほど防衛省と今、交渉中だと、こういうお話をしました。うまく交渉がまとまれば、整備費のうちのそれなりの部分は支援はしてもらえる可能性はあるというところです。管理費は毎年かかる話なので、これにどれだけのものが必要で、それはもう、一回つくってしまえば、ずっと何十年と必要になるコストなので、いかに節約しながらこの状態を維持できるかということが肝心の課題かなというふうには思っています。

アーチェリー場の件ですが、今、第一運動公園のところで、弓道とアーチェリーが併用して、お互いが使っているというところで、弓道の方にとっても非常に使い勝手も悪く、アーチェリーにとっても悪くという状況です。この自然の中でできるんだったら、弓道というわけにはいかないので、アーチェリーであればそんなに建屋をつくるということではないので、その辺でやや大きく見れば活用可能かなというところで、今回の計画には入っています。したがって、何か自然を壊してつくるということではないという範囲の中で、整備できるかなと、そんなふうに思っています。

先ほどペイントゴールのところを見ていただきましたけれども、あそこはレクリエーションエリアという位置づけにしていますので、できればあそこはそれなりに整備をすれば、いつでも入れるエリアにできればいいかな。こちら側は、広いということもありますし、池もあって、それなりに管理は大変だし、逆に少しセーブしながら、ゆったりと自然を壊さずに、大切に使えるエリアとしてここを位置づければいいかなと、そういうすみ分けをできればいいかなと思います。入ってくるときに、駐車場のところにゲートがあったのをお気づきでしょうか。今はもちろん開いていますけれども。ですから、あそこのゲートをどうやって閉めたり開けたりするかということも、これから運用のルールを決めていく中で検討しなければいけないかなというふうには思っています。

これも公園となった途端に、多分、犬を飼っている人はここの奥まで入ってきたくなる。でも、それはやっぱりちょっとセパレートして、犬はちょっと限定的なところで、囲って活用してほしいと。それ以外のところ、ここを散策させるとなると、犬のふんの問題も含めて、動植物に危害を加えるとかというリスクが当然でできますので、バッティングしないようにという意味で、あまり影響ないところにドッグランというものを一応配置しました。そういう意図です。

【市民】 今、市長がお話しになっていらっしゃるように、管理費はね、永遠に続くんですよ。もう一つ、恐らく想像するに、管理費はね、防衛省の補助金の対象ではないんだと思いますね。そうであれば、やはり共同使用する場合、これからずっと管理費はこのくらいかかりますよ、それだけ財政に負担になりますよということを事前にはじいていただいて、それだったら何か節約できるものはないか、そういうふうな発想で、ぜひ取り組んでいただきたい。緑があってすばらしいところに入れる。それだけじゃなくて、お金はかかって、逗子の財政というのはかなり厳しいですからね、そういったことも市民にわかるように伝えて、やっていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

【平井市長】 ありがとうございます。ここは今、共同使用という形でオープンを、目指しています。その先には返還ということを当然目指していて、その返還を決めるまでの間、共同使用という位置づけになっているんですけども、共同使用の場合と返還の場合というのは全然違っていて、返還というのはまさにこの土地が返還されます。米軍の提供地じゃなくなると、そういうことです。そのときの管理のあり方はまた違ってきます。完全に今度、逗子がすべての責任を負います。共同使用ということは、米軍に提供されたまま、提供地であるけれども、このエリアだけを仕切って、市民も使っていていいですよと、そういう形になります。ですから、米軍の方も例えば運動施設なんかも共同使用をするということは、一緒に使うということになりますので、こちらの立場からいくと、米軍の方も使うんですから、管理費を国もちゃんと面倒を見てくださいねということは、一つの交渉事としてはこれから詰めていきます。それがおっしゃるように、管理費は防衛省の補助のそういったメニューにはないというのも確かに事実なんですけれども、そうなるかどうかという交渉していくかということは、今まさにやっている最中です。ただ、どちらにしても、何千万円の管理費がかかりますから、それはできるだけお金はかけないで、または市民の皆さんの協力もいただきながら、維持していくと。当然、大体の数字が出てくるのは、皆さんにお示しして、これだけの管理をするためにはこれだけ必要です。例えばこの部分はボランティアの人に協力していただければ、これだけで済みますとか、そういった議論もこの先、していく必要は出てくるなというふうには思っています。

さあ、大体1時間ぐらいたったということですので、本当に皆さんから貴重な御意見をいただいて、これからの検討に大変参考になったと思います。先ほど2回と言わずに5回でも10回でもという御意見もいただきました。共同使用が実際に始まるまでには、まだしばらく時間がかかりますので、その間にできるだけ、今おっしゃったように多くの方にここに入っていただいて、見て、感じていただきたいなと思います。できれば子供たちが入る機会も、今、一般の方はだれでもどうぞとやっているのですが、なかなか子供連れというのが今のところないので、できればそういう機会もつくれば、実際に子供たちがここへ入ってみて、子供の目線で感じることも当然あるでしょうから、そんなような機会も、ぜひつくってみたいなということは今、感じました。

きょうは本当に気持ちのいい一日になりまして、皆さん満喫いただけたと思うし、こういう自然の中でやはり皆さんの感じるということというのは、本当に共通しているなということを感じました。皆さんの貴重な意見をしっかりと受けとめて、これから未来永劫、ここはしっかりと守られるような、これからの計画を検討していきたいなというふうに思います。本日はどうも本当に

ありがとうございました。（拍手）

【福本市民協働課長】 ありがとうございました。これから帰りということになります。後ほどゲートを出たところでアンケートをお配りいたします。言い足りなかったこと、あるいは帰り道でふとひらめいたこと、いろいろあるかと思います。アンケートのほうにどうぞ御記入ください。よろしく願いいたします。ありがとうございました。